

子どもの成長を願い 七草祝いに7家族出席

青少年育成部では、1月7日午前9時30分から早鈴神社で七草祝いを行いました。今年も男児4人・女児3人の7人が七草祝いに出席しました。始めに、一人ひとり手のひらに墨をつけ、色紙に手のひらを当てて手形をとっていました。そのあと、子どもたち一人ひとりの成長と無病息災を願って神事が行われました。



七草に出席した子どもたち



手形を取る子ども

無病息災を願い 鬼火焚きを開催



打ち上げられた花火と鬼火を囲む参加者ら

泰野校区コミュニティ協議会では、1月7日午後6時から公民館広場前の水田で鬼火焚きを開催しました。厳しい寒さの中、校区民をはじめ多数参加されました。会長あいさつのあと、年男女の子どもたちが将来の夢を大きな声で発表していました。

そのあと、大人を含む年男女の方々が火のついた松明を持ち、無病息災を願い、点火の合図で一斉に竹櫓に火を付けました。火は瞬間に燃え上がりパチパチという音とともに夜空を焦がしていました。今年も花火を打ち上げ鬼火焚きに花を添えていました。



将来の夢を発表する子どもたち



点火風景



新年のあいさつ

会長 上原 登

明けましておめでとうございませう。皆様にはお健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は公民館からコミュニティ協議会へと組織が変わった変革の年でしたが、協議会の運営や事業に御協力を賜わり厚くお礼申し上げます。本年もご指導、ご協力をお願いいたします。

さて、四月から組織が変わりましたが、今日まで先輩たちが築いてこられた公民館活動・青少年育成活動・ふるさとづくり委員会活動を継承し、地域の力を集め、協働による地域づくりを行う仕組みとしてコミュニティ協議会で「みんなで創る明るく豊かなふるさと泰野」を将来目標として取り組んでまいりました。昨年も新型コロナウイルス

スの感染拡大が続き、活動も中止や制限をしながらの取り組みでしたがそのような中でも、新たに小学校の愛校作業や市道愛護作業、広報紙の発行等の取り組みをしてきました。また、水土里サークルとの共同活動の一環としてかかしまつりも実施し、彼岸花が咲き乱れる中、54体のかかしが秋の田園に登場し、秋の泰野

交通安全を願う

3か所で立哨

防犯防災部では、1月10日から16日にかけて交通安全街頭立哨を行いました。

冬休み明けの児童生徒が安全に登校できるように泰野小学校前、松山中学校前、泰野郵便局前の3か所で行いました。

寒さ厳しい期間の早朝でしたが、児童生徒は、大きな声であいさつし、元気に登校していました。



郵便局前の立哨風景



中学校前の立哨風景

を飾ってくれました。防犯防災活動では、各学期初めの一週間、小学校前、中学校前、郵便局前の3か所で児童・生徒の交通安全立哨活動を始めました。そして冬の泰野を明るく彩るイルミネーションをコミュニティ広場（公民館広場）に設置してまいりました。

泰野は、春は菜の花、れんげが。県道沿いにはパンジーの花が。秋にはコスモス。ヒガンバナが咲き乱れる地域です。泰野の「泰」は「ゆったり安らかなこと」という意味があります。「みんなが創る明るく豊かなふるさと泰野」を目指して皆様のご協力をお願いします。

みどり保育園と公民館広場に イルミネーションを設置



点灯されたみどり保育園のイルミネーション



点灯された公民館広場のイルミネーション

このほか、6月と12月には、「一人も取り残さない」を目標に高齢者の孤立を防ぎ、つながりを作るため定期的な訪問をして、安否確認を行うため、地域で確認し合うネットワーク会議を開催しました。4人の

健康福祉部では、「ともにつながり、支えあう、安心して生き生きと暮らせるまち泰野」を将来の目標として、敬老会を開催し楽しいひと時を過ごしていただく計画でしたが、コロナ禍の中では一同に集まることのリスクを考慮し、今年度は9月18日に集落自治会長の協力をいただき、75歳以上の185名の方々に敬老御祝弁当を配布しました。これまで泰野を、地域を支えてこられた先輩方に、感謝の意を込めて、健康と長寿をお祝いしました。

また、11月19日には、民生委員・見守り活動協力員の方々にお願いし、一人暮らしの高齢者33名の方々にお弁当を配布しました。



ネットワーク会議の話し合い風景

泰野の冬を明るく暖かく
ふるさとづくり

ふるさとづくり部では、泰野の冬を明るく暖かく飾ろうと、泰野イルミネーションの点灯式が12月1日、みどり保育園で保育園児・小学生など多くの参加者で開催されました。保育園児の「パプリカ・

365日の紙飛行機」の合唱、小学生の泰野小学校の校歌斉唱のあと、カウントダウンをして約2万球のイルミネーションに灯がともりました。昨年までのみどり保育園に加えて、今年度はコミュニティ広場・公民館広場に増設しました。これは、泰野出身の大町一博様が生まれ故郷の為に応援したいと支援くださいましたので増設したものです。今年1月7日の鬼火焚きの日まで、午後5時30分から9時30分まで毎日点灯しました。

ささえあい 安心して
生き生きと暮らせる泰野に

民生委員・10人の見守りアドバイザー、学校長・駐在所の推進員の参加をいただき現状を確認し合いました。



泰野小学校は明治六年（一八七三年）六月に創設されました。今年でちょうど創立百五十周年の大きな節目を迎えます。昨年八月の準備委員会を経て、十月には泰野小学校創立百五十周年記念事業実行委員会が正式に発足しました。現在、月に一回程度、実行委員会を開き、記念事業についてアイデアを出し合い、計画を作成しているところで

これからの泰野小学校の在り方に目を向けたとき、課題となるのが児童数の減少への対応です。今年度の全校児童数は四九名で、五・六年生は複式学級です。それが、六年後の令和十年度には二九名にまで更に減少する見込みで、一・二年、三・四年、五・六年とも複式学級になります。この傾

人の活躍の機会が増える、人間関係が深まりやすいなど）があり、一概に小規模校がよくないわけではありませぬ。しかし、あまりにも人数が少なくなると、短所（体育や音楽等の集団の学習活動が行いにくい、多様な考えが出にくい、良い意味での競争心や向上心が育ちにくい、人間関係が固

皆で考えよう

これからの泰野小学校の在り方

泰野小学校長 村田 富秀

す。事業内容が決まりました。校区の皆様にもお知らせします。その際は、何卒ご協力をお願いいたします。

さて、創立百五十周年を機に泰野小学校のこれまでの歴史を振り返り、先人のご苦労やご努力に敬意を表するのは大変意義あることです。と同時に、泰野小学校の未来を考えていくことも大切です。

向は泰野小だけでなく松山小や尾野見小も同じです。今年度は松山町内の三小学校で総数一九八名なのが、六年後の令和十年度には一一名まで減る見込みです。小規模校には、小規模校なりの長所（一人一人が目が行き届きやすい、一人一

定化されるなど）の方が顕著に現れ、子どもたちの成長に悪影響を及ぼしかねません。これからの泰野小学校の在り方について、皆で考えることが必要な時期になっていると思えます。

泰野小で餅つき体験

青少年育成部では、12月10日、泰野小学校で餅つき体験を行い、5・6年の児童15人が参加しました。餅つきは昔ながらの杵と臼を使い行いました。また田植えから収穫まで行ったものを使いました。児童らは、重い杵を使い一生懸命餅をついていました。

出来上がった餅は、児童らが丸めて丸餅にし、パックに詰めて一パックずつそれぞれが自宅に持ち帰りました。



杵と臼で餅つきを体験する児童ら